

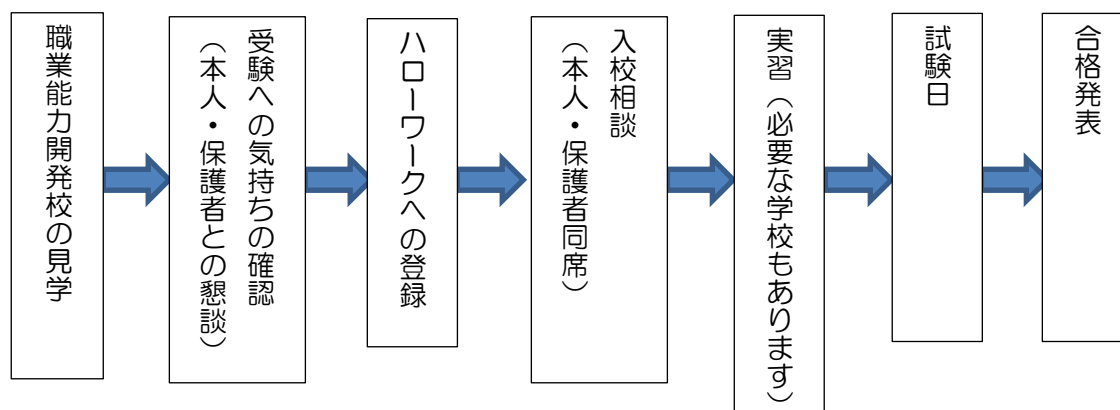
## 福祉サービス以外の進路

### 職業能力開発校（ハローワーク管轄）

大阪府下にある12の職業能力開発校、特別委託訓練施設、高等職業技術専門校を受験して1年間の訓練期間を経て、就職をめざします。1年間の訓練のうち、後半は職場実習が中心になってきます。夏の見学会等を利用して3年生になるまでに見学をしておいていただくと、スムーズに準備を進めることができます。試験は12月ごろに行われ、学科試験・面接試験・体力検査などがあります。申し込みができるのは1校のみです。不合格になっても、追加募集があればもう一度応募することができます。

障がいのある方対象の科目は、それぞれ対象となる人が学校ごとに募集されます。それぞれの障がいに応じた手帳が必要となります。例えば、**摂津市障害者職業能力開発センター（せつつくすのき）**や**大阪INA職業支援センター**の受験には**療育手帳**が必要です。授業料、入校考査料、入学金などはかかりませんが、実習で使う教材や作業着などの自己負担があります。

訓練科目は木工や園芸など訓練校によって様々ですが、共通のねらいは特別な技能を身につけることではなく、職業人としての基礎・常識を学ぶことです。例えば、仕事に対応できる体力づくり、社会での習慣を知ること、上司や同僚との応対、人間関係の構築などを身につけることなどです。期間は1年間というところが多く、卒業後ただちに就職できることをめざして訓練や実習を受けていきます。



### 進学

本校高等部を卒業すると、「特別支援学校高等部卒業」という資格になります。一般的な「高卒」（高等学校卒業）ではありませんが、「高卒」と同様に大学入学資格は得られます。ただし、大学入学資格はあっても大学受験資格があるかどうかは、大学側が定めることになっています。そのため、大学への個別の確認が必要となります。なお、「高卒認定」（旧・大検）も「高卒」ではなく、試験を受けて認定されると大学入学資格がもらえるというものです。そのため、支援学校高等部を卒業してすでに大学入学資格を得ている場合には、「高卒認定」の試験を受けることができません。また、支援学校高等部を卒業すると高等学校へ入学しなおすこともできません。

大学・短大・専門学校への進学を考えている方は、できるだけ早くその意向を学校へお知らせください。

## 就職（ハローワーク管轄）

本人と保護者がともに就職を希望する場合、進路担当・担任との懇談で意思確認をします。就職に向けての見学、就労体験実習などは2年生から多く入ってきます。就職については、1回の実習で採用が決まることは難しく、様々な会社で実習を行うため、進路決定が遅くなることもよくあります。本人の就職への強い気持ちと、実習にかかる交通費などの金銭面、精神面での保護者の方の協力が不可欠です。

一般的に知的障がい者の採用基準としては、

- ・本人に働く意欲、働きたいという強い気持ちがあること。
- ・体力、作業能力があること。
- ・規則正しい生活を送ることができること。
- ・チームワークを保つ協調性があること。
- ・家族の支援、バックアップが十分にあること。

以上を充たしていることが必要であるとよく言われています。

その上で、本人が「どんな仕事をしたいのか」「手先の器用さや、集中力はどうか」「対人関係はどうか」「どの程度まで通勤が可能か」など、自分の希望や自分の今ある状況をしっかりととらえておくことが必要です。就労先は、公共職業安定所（ハローワーク）と学校が協力して探します。希望に合う会社が見つければ、1～2週間程度の職場実習を行います。実習後「本人がそこで働きたい」「会社が雇いたい」と、お互いの気持ちが一致すれば、ハローワークの担当者と学校を交えて、給料や休みなどの労働条件を確認し、就労先を内定します。

